

# 令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

## 目 次

### I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
  - (1) 学園の沿革
  - (2) 学園の組織
  - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
  - (4) 役員賠償責任保険の内容
  - (5) 設置する学校・園の名称及び所在地
  - (6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
  - (7) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

### II 事業の概要

- 1 有明教育芸術短期大学事業報告
- 2 日本音楽高等学校事業報告
- 3 日本音楽学校幼稚園事業報告
- 4 日本音楽学校保育園事業報告

### III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

## I 法人の概要

### 1 法人の名称

学校法人 三浦学園

### 2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

### 3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

### 4 沿革及び学園の組織

- (1) 学園の沿革 (別紙参照)
- (2) 学園の組織 (別紙参照)
- (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

#### ① 理事・監事

〈令和 5 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理事長	第 2 号 理事	三 浦 洋 義	学園長
常務理事	第 2 号 理事	三 浦 裕 明	理事長補佐
理事	第 1 号 理事	若 林 彰	有明教育芸術短期大学学長
理事	第 3 号 理事	富 永 光太郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
理事	第 3 号 理事	陰 山 雄 司	岩井機械工業株式会社主幹
理事	第 3 号 理事	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		北 島 芳 昭	(学)井之頭学園法人事務局長

#### ② 評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長・理事長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 裕 明	常務理事・理事長補佐
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	雨 宮 伸太郎	法人事務局次長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋 谷 匡	有明教育芸術短期大学事務局広報課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	田 中 美 恵	日本音楽学校保育園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	元日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	日本音楽高等学校同窓会監査

評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役
評 議 員	第 3 号 評 議 員	磯 是 詔	元本学園法人事務局長
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	根本美香バレエスクール主宰
評 議 員	第 3 号 評 議 員	細 田 洋 平	合同会社よすが学院 代表

(4) 役員賠償責任保険の内容

理事会決議により、令和3年6月1日から役員賠償責任保険に加入

1. 団体契約者

日本私立中学高等学校連合会

2. 被保険者

理事、監事、評議員及び管理職職員

3. 主な補償内容

法律上の損害賠償責任に基づく賠償金、争訟費用等

4. 保険加入期間中の総支払限度額

1億円

(5) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目9番2号
日本音楽高等学校 普通科 (幼児教育コース) 音楽科 (幼児教育コース) (音楽コース) (バレエコース) (舞台芸術コース)	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号

(6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

〈令和4年5月1日現在〉

	入学 定員	収容 定員	学生生徒園児 現 員 数	令和4年度 入学者数
有明教育芸術短期大学	100名	300名	247名	85名

子ども教育学科	100	300	247	85
日本音楽高等学校	100	300	167	76
音楽科（幼児教育コース）	100	300	23	7
（音楽コース）			30	16
（バレエコース）			42	24
〈舞台芸術コース〉			72	29
日本音楽学校幼稚園	35	150	75	17
日本音楽学校保育園	9	26	26	5

(7) 設置する学校・園教員・保育士数の状況（令和4年5月1日現在）

①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	8	6	0	1	0	15	26

\*学長は教授に算入

②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
日本音楽高等学校	17	51
日本音楽学校幼稚園	6	5
日本音楽学校保育園	12	1

## II 事業の概要

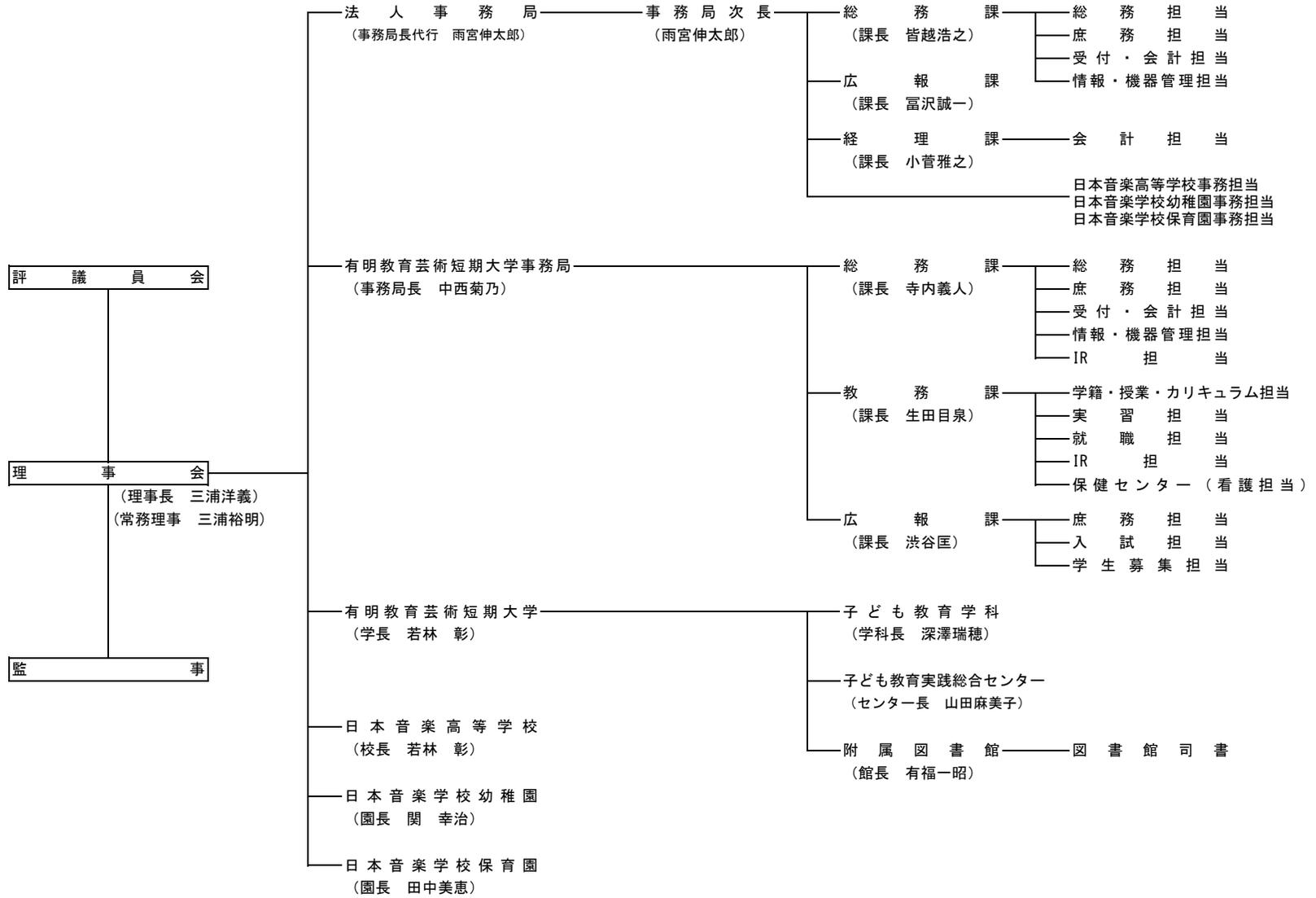
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

## III 財務の概要 別紙資料の通り

法人の沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正13年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和19年	学校法人三浦学園成立(3月31日)
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保母養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バレエコース」設置
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成14年	日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
	平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
	平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
	平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変]
	平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
	平成26年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
	平成27年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
	平成28年	日本音楽高等学校 普通科募集停止
	平成29年	日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集
平成30年	有明教育芸術短期大学創立10周年	

I - 4 - (2) 学園の組織

(令和5年3月31日)



# 1. 令和4年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

## 1 教育課程

### (1) 教育課程の編成・実施

#### ①新設教科(2年度より新設)の充実実施

・『国際理解教育』、『ライフキャリア演習 I～IV』の充実実施。ライフキャリア演習については、卒論と就職指導に内容が偏っているため、「大学での学びの在り方等」について進めるよう充実を図った。

・『卒業研究』を『卒業研究 A(論文)』と『卒業研究 B(総合表現)』に分けて選択必修として充実実施した。

・「子ども教育特別講座」は、実技系の教科であり、また本学の特色を示す内容とする講義として積極的な教育活動を行った。

- 1 「ストリートダンスを学ぶ」 ヒップホップダンス
- 2 「アニメーション」 デジタルアニメーション
- 3 「遊ぶ・解放・自己表現」 ドラマ表現
- 4 「micro:bitで遊ぼう」 AI入門

#### ③オンライン授業の効果的な実施。

コロナ禍によるオンライン授業から、通常に行うオンライン授業としての課題の解決図り、実施した。取り上げられた課題としては、「提出課題の精選・教員の取組の差異・学生の Device 差による取組」である。

#### ④新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底を行った。

##### 留意事項

- ・検温、手指消毒、体調確認
- ・授業終了後の消毒
- ・教室定員の1/2での授業
- ・指導者のマスク・フェイスガード等の使用

### (2) シラバス記載要領の見直し

「アクティブ・ラーニング型授業」の欄について、種類の分類を修正するとともに、各アクティブ・ラーニング型授業に関する説明を明示した。「履修上の留意点」の欄に授業への出席や欠席が加点及び減点要素になることを記載しないこと、学生が誤解するような表現も記載しないことを記した。

### (3) 学習成果の把握・評価・公表

前期に「外部テスト」を実施し、学生の基礎学力の把握及び評価結果を踏まえた担任からのフィードバックを行った。また、「外部テスト」の結果から基礎学力が不足する学生を抽出し、補習課題を与える学習支援方を試みた。

前期及び後期に「学修実態アンケート」を実施し、学習成果の獲得状況を把握すると共に、量的データとして本学ウェブ上に公表した。アンケートの質的データは各担任が学生の学修指導を行う際の資料として活用した。

#### (4) 教育課程の点検

アセスメント・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップを確認し、当年度及び次年度の教育課程の点検を行った。アセスメント・ポリシーは学修成果の評価方針として不備がないことを確認した。カリキュラム・ポリシーについては、教育課程と適合しているが、カリキュラム・ポリシーの定義にある「実施の方針・評価の方針」についての記載が不足しているため、来年度より修正作業に着手することが承認された。

カリキュラム・マップは各授業科目とディプロマポリシーは適合しているか検証し、ディプロマポリシーとは適合しているが一部(教養科目)にカリキュラム・ツリーの科目群と合致しない科目があるため、令和5年度終了時にディプロマサプリメント等の状況と照らし合わせ、検討を行うこととなった。

#### (5) 教育課程の整備

大学等改革総合支援事業(タイプ1)調査票に基づき、本学における教学マネジメントの現状を点検した(59/95点)。その結果、本年度は選定ラインの69点を下回り、大学等改革総合支援事業(タイプ1)として本年度は選定されなかった。

### 3 自己点検・評価

#### (1) 情報公開

令和3年度の教育課程に関する自己点検・評価をホームページで公開した。

#### (2) 認証評価(短期大学基準協会実施)

本年度、本学は教育研究等の状況について、主体的な改革を目指し、短期大学として基準に適合しているか自己点検を進めると共に短期大学基準協会から認証評価を受けた。

##### ○自己点検評価委員会 報告書作成

4月より6月まで、計14回の自己点検評価委員会を開催して自己点検評価報告書を作成した。

##### ○認証評価調査

10月17日・18日の2日間にわたって短期大学基準協会調査チームにより実施された。調査はコロナ感染防止のため、オンラインで実施された。

・10/17 備付資料等の確認、検討 面接調査

・10/18 建物施設調査確認 動画にて実施 面接調査 学生インタビュー

##### ○調査結果

12月に「適格」の内示

##### ○成果と課題

詳細は後日お渡しする報告書をご参照頂きたい

### 4 教員評価の実施

令和元年度9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」をもとに、教員評価活動は本年度も実施した。本学4度目の実施となる。

教員評価は本学教員が、自己の活動を点検し、評価することを通して、本学の教育研究

活動の活性化を促進し、教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資するためである。対象者は、前年度1年間、本学の専任の教授、准教授、講師、助教であったものとする。評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域としA～Dの評点に基づいて自己点検評価を行う。

<評価内容>

(1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

(2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績  
④外部研究費の導入実績

(3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員  
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

(4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

(5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和3年度における教員活動評価を実施した。(提出者は13名中12名)

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した4名に対し、規定に基づき顕彰を行った。(学長奨励賞・赤坂澄香・石井友行・松田英美子・池口洋一郎・山本剛)

## 5. 研究活動

(1) 有明教育芸術短期大学紀要第14巻

・原著論文 3編 実践研究 3編 事例研究 1編 その他 1編

<原著論文>

- ①拡大自殺とキャリア教育に関わる考察 (教授 石井友行)
- ②小学校国語科指導におけるアクティブラーニングの構築～文学的教材における主体的・対話的で深い学びを求めて (教授 長田信彦)
- ③ガイダンス機能の充実を図る宿泊研修における一考察～有明教育芸術短期大学の1年生宿泊研修のアンケートをもとに (教授 石井友行 非常勤講師 佐野匡)

<実践研究>

- ①ユニバーサルデザインに向けた算数指導について～学習障害 (ALD) のある子どもの支援を基に (教授 池口洋一郎)
- ②保育者養成校における音楽表現に関する一考察～新曲視唱への取り組みに着目して (教授 山田麻美子)
- ③子どもの心を理解する保育者を育てるための指導の在り方に関する実践的研究～「子どもの観察記録」に対する学生の自己評価の分析を通して (准教授 赤坂澄香)

### <事例研究>

- ①保育内容「表現」におけるイメージの共有とオノマトペ～主体的な表現の育みへ  
(非常勤講師 大島靖史)

### <その他>

- ①合唱指導による実践例から見た歌唱指導の在り方 (日本音楽高等学校 松田乃利子)

### (2) 子ども教育総合センター紀要第6巻

- ・原著論文 1編 実践研究 2編 実践報告1編

### <原著論文>

- ①道徳科の指導における問題解決的な学習の充実について (教授 石井友行)

### <実践研究>

- ①保育者養成における手遊び・わらべうたの実践～領域「表現」との関連に着目して  
(准教授 松田英美子 准教授 信田朋子)
- ②保育者養成校における音楽表現活動の取り組み～「音楽1」の授業実践を通して  
(助教 伊藤菜々子)

### <実践報告>

- ①子ども教育のあり方について～ふわふわ言葉とちくちく言葉に視点をおいて、  
(教授 深澤瑞穂)

## 6. 募集対策

参加者総数は2年連続で300名を超え、受験対象者実数も R3 年度に続いて過去5年間の最多人数を更新した。開学以来で比較しても、参加者総数は平成(以下 H)26年度の329名に次ぎ、受験対象者実数も子ども教育学科の入学定員充足した3年間

(H24年度 = 188名 H25年度 = 182名 ・ H26年度 = 214名) に並ぶ数値であった。好調だった参加者数に対して出願者数が減っている要因としては、大規模な総合大学も含め3年振りにほと

んどの大学で来場型 OC が開催された影響で、生徒一人当たりの OC 参加校数が増えたことで歩留りが減少したと考える。



## 8. 退学者

退学者は、7名 (3年度比 0名) である。進路変更(3名)、学習意欲喪失(4名)が

理由である。その他除籍が5名である。教員及び教務課職員によるきめ細かな個別対応の成果が上がったと考えている。

## 9. 学生生活

### (1) 初年次研修 1年生全員合宿の実施

#### ①合宿の目的

新入生の大学生活スタートを支援し、3年間の学びをサポートする第一歩としてガイダンス、オリエンテーション、親睦の機能をもたせた1年生全員合宿を行う。

- ・各種申請書類提出、授業履修、学修、子ども教育学科の概要など、大学生活に必要な情報を与える。
- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等に向けた3年間の学修の流れなどについてガイダンスを行い、1年生が大学生活に見通しをもてるようにする。
- ・学生相互、上級生、教員との親睦を図り学生の人間関係形成を図る。
- ・新2年生有志のメンターは企画担当として活動の場を設定することにより、人間関係形成能力、リーダーシップ等の実践的な学びの場とする。

#### ② 実施の概要

##### ○実施日時・場所

2022年5月21日（土）、22日（日） 山中湖畔荘ホテル清溪

○参加者 1年生85名、2・3年生メンター、16名（2年）3名（3年）  
教員7名 事務局1名 常務理事

### (2) 有明祭

10月22日（土）23日（日）一般公開で実施。

学友会を中心に企画を行い、サークル、有志の学生団体によるパフォーマンスを大ホール及びドラマ演習室で行った。各団体の練習、撮影はすべて新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、学生委員会の教職員が中心となって立ち合いを実施した。飲食、展示、イベント等も3年ぶりに実施した。昨年度に引き続き、仮装大会を実施した。制限はあるものの、対面形式での実施であったため、学生の活動意欲は、大変が高いものがあった。

### (3) サークル活動

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、年度当初からサークル活動は中止であったが、原則、自粛としつつも、活動したのは、8団体のサークルとなった。

## 10. キャリア形成・就職支援

公立小学17名、公立保育園4名が合格。 キャリア形成・就職支援の充実を図った。

### (1) 公立小・幼・試験対策プログラム『夢 Realize（ユメリア）』の創設

『夢 Realize（通称：ユメリア）』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向けて自主的かつ協働的な学びを行うための支援プログラムで学びを深めた。

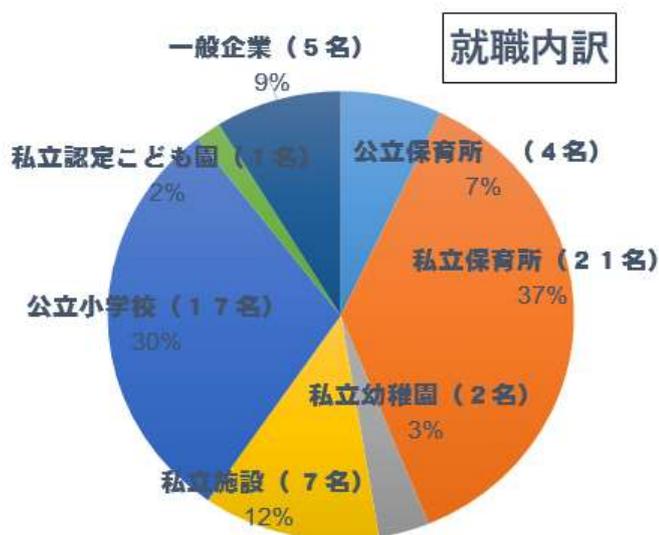
ねらい	1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。
受講対象者	公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生
実施内容	同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。 採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。 それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。
指導員	・学科教員 ・キャリアサポートセンター職員

(2) 就職状況

令和4年度卒業生		計	男	女
卒業生数		67	9	58
希望進路	就職	59	9	50
	進学	4	0	4
	その他	4	0	4
決定進路	就職	57	8	49
	進学	4	0	4
	その他	0	0	0

< 就職先内訳 >

- 公立保育所・・・(4名)
- 私立保育所・・・(21名)
- 私立幼稚園・・・(2名)
- 私立施設・・・(7名)
- 公立小学校・・・(17名)
- 私立認定こども園(1名)
- 一般企業・・・(5名)



(以上)

## 2. 令和4年度 日本音楽高等学校 事業報告

### 1 学習活動

専攻実技や専攻実習の技能と表現を高める指導とともに基礎的な学力の定着・学習意欲の向上・希望の進路を実現する学力の向上に向け指導の充実を図った。

(※各コースの専攻実技や専門の授業も『学力』として捉えることを周知)

#### (1) 指導計画の充実

- ・本年度より新学習指導要領完全実施、それに合わせ、全面見直しを図った。
- ・ねらいが明確な授業となるよう、指導計画を作成した。
- ・専攻の実技についても指導計画を見直した。

#### (2) 授業の質的変換

##### ・指導と評価の一体化

指導と評価の一体化の考え方を全職員で共通理解した。

特に、通知表などで家庭に成績を示すことの意義を確認し、評価を提示後の指導の充実の必要性を確認した。

##### ・観点別評価

本年度より導入された観点別評価について、教員研修会を開き、意義、評価方法、観点の設置の在り方などについて共有した。

##### ・個に応じた指導の充実

習熟度に応じた学習の展開

長期休業中の補習

英語指導のグレード化の実施

#### (3) 高大連携

- ・有明教育芸術短期大学子ども教育学科 参加対象：幼児教育コース全員  
内容：模擬授業「うたと手遊び」4～7月（3年生4名参加）  
「子どもの文化」9～2月（2年生不参加）

#### (4) 修学旅行

- ・第2学年 2月13日～16日 沖縄本島  
体験活動を重視 平和学習・沖縄文化体験をテーマに実施

### 2 生徒指導

#### (1) 建学の精神の周知

建学の精神と教育目標を額に入れ、全教室へ掲するとともに、その意義について考えさせ、愛校心とともに学びへの意識向上を図った。

#### (2) 基本的な生活習慣の確立

人と人とのかかわりの重視した。

##### ①朝のあいさつ

「あいさつをする側」の体験

- ・生徒会主催（朝の校門）
- ・学級ごと
- ・外部の方との挨拶

②授業でふれ合う外部の人々とのふれあい

- ・特別授業 ゲストティーチャーからの学びの場における関わり方について実践
- ・外部の方との校内での出会いでのあいさつ 言葉遣いを重視

③日本音楽幼稚園・日本音楽保育園の様々な催しへの積極的参加

(3) 規範意識の自律的育成

①「基本的な生活ルール」「社会のルール」について、自ら考え、判断し、身につけていく指導を重視した

②校則による指導の撤廃

校則・ルールをただ守らせるから、生徒自身がなぜ守らなければならないのかを考えさせるようにした。制服の着こなしについても、生徒自身で考えられるようにするなど、自主性を重んじた指導の在り方について教員の意識改革を行った。

(4) 年2回「心と体のアンケート」の実施

定点観測して比較予定・養護教諭の分析及び担任へ周知し、生徒の生活改善・生徒指導に活かしている。また、三者面談で保護者への啓発にも活用している。

### 3 各学年における指導

(1) 第1学年

建学の精神である「愛と和と誠実」についてしっかりと理解させるとともに学校に慣れることを第一に指導に当たった。また、3年後の進路実現にむけて、学年集会で指導を行ってきた。5月に校外学習を実施し、生徒間の人間関係を深めた。学年集会でも、学年の和、友達同士の関わりを大切にする指導を行ってきた。

(2) 第2学年

本年度は、①修学旅行に向けての学年の和を構築すること、②進路活動にむけての声かけ、③校則ルール変更に伴う対応など、3つの柱を重視し、学年の教員間の細かな打ち合わせ、会議を繰り返しながら、必要に応じて学年集会を行うことで、成果をあげることができた。特に成果が現れたのは、修学旅行の場である。学年の輪、生徒主体による行動を軸に活動の充実を図ることができた。来年度は最高学年として、人に対して優しい気持ちをもつこと、協調性の大切さについてさらに指導を高めていく。人として大きく成長する一年にしたい。

(3) 第3学年

卒業公演で、学年合唱に力を入れ、3年生全体が一丸となることができた。また、在校生全員と保護者に鑑賞してもらい、最高学年としての自覚の高まり、3年間のまとめとしての意識の向上を図ることができた。卒業遠足を2月に実施し、日本音楽高等学校を引っ張っていく最後の1年という意識を3年生全体でもつことができた。各行事では、生徒によるそれぞれの委員長を中心に行事を創り上げることができ、特に「日音祭」や「サウンドオブミュージック」では、3年生としての意識を高め、活躍する生徒が多かった。進路の実現においては、全体指導と個々での指導を学年や担任で連携して行った。日本音楽高等学校最後の3年生ということを目覚めさせることで行事への思い入れも強まり、活動の充実が図れた。

## 4 進路指導

### (1) 個に応じた進路指導

#### ①キャリア教育

自分のよさを理解し、自身の夢を持たせ、努力する指導を大前提として推進した。

#### ②指導計画の作成

進学への指導も含めて、これからの自己の在り方について考えるキャリア教育の指導計画を作成した。年度末に1・2年生進路希望調査の用紙を配布した。また、音楽科の進学指導についての簡単なマニュアル作成に着手した。

#### ③進路への意識付け

進路体験報告会、受験報告会を実施した。3年生対象面接対策講座を6月に実施した。

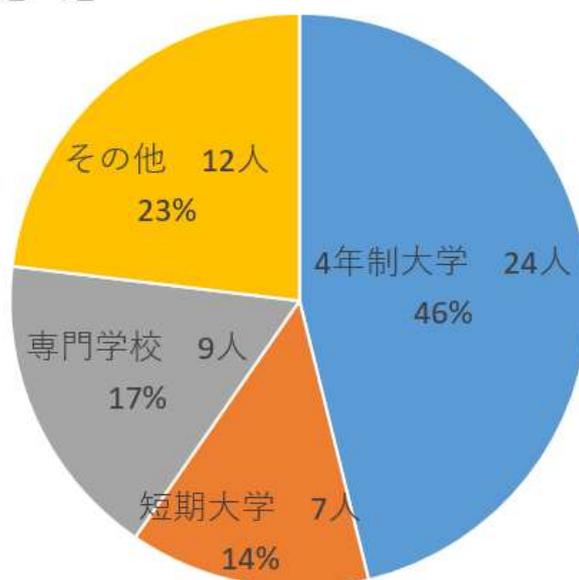
#### ④総括

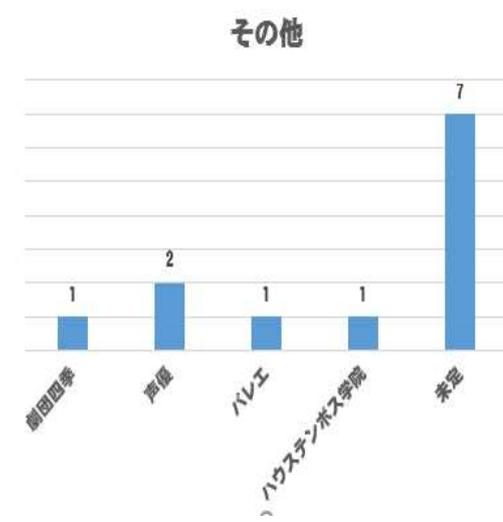
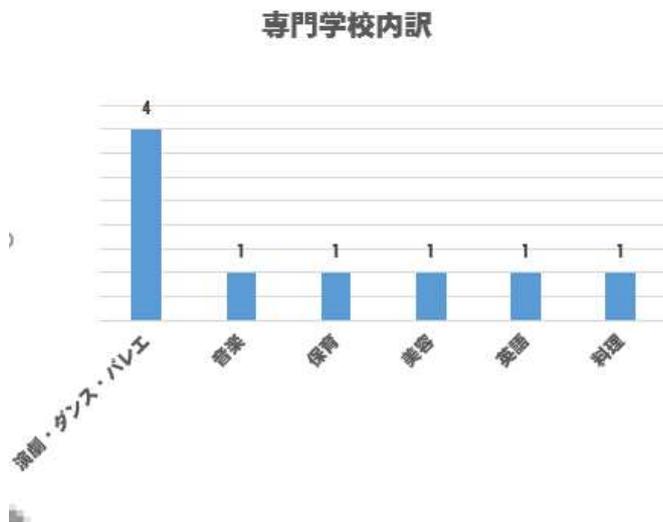
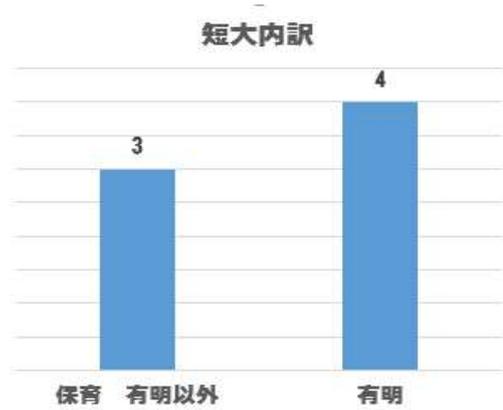
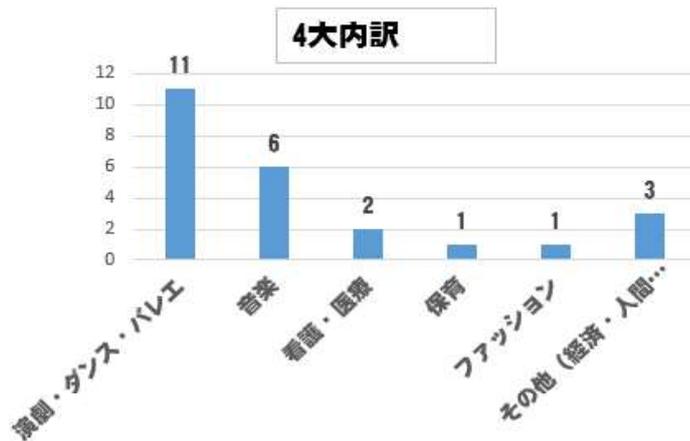
本年度より、キャリアパスポートによるキャリア教育を実施した。しかし、中学校からの資料は、地域、学校によって精度がまちまちで、高校として、小学校、中学校の情報をもとに、進路指導を進めることが困難であった。そこで、中学校からの資料を使用せずに、高校からのキャリアパスポートを作成して、進路指導を実施した。今後も、当面この状況が続くと懸念される。

本年度は、新型コロナウイルスの影響によるで大学でのオープンキャンパスの延期等は一定程度、収束しており、生徒は希望する大学等のオープンキャンパスに参加していた。今後は自分の希望する大学等以外へも参加して視野を広げる必要がある。

### (2) 令和4年度の進路状況

#### 進路





## 5 生徒募集

令和5年度 入学者数 ※( )内は、一昨年・昨年度の数

応募 246名 (56名・96名) 受験 238名 (55名・93名)

合格 236名 (55名・93名) 入学 165名 (42名・76名)

### <コース別入学者数内訳>

	普通科		音楽科			合計
	eスポーツ	リベラル	バレエ	ミュージカル	ミュージック	
A 推薦	36	5	14	32	15	102
B 推薦	0	0	1	4	0	5
一般(1次)	18	9	3	11	5	46
一般(2次)	3	6	1	1	0	11
一般(3次)	0	1	0	0	0	1
入学決定	57	21	19	48	20	165

応募者	80	55	23	55	33	246
受験者	77	51	23	55	32	238

## ※令和4年度入試の傾向

- (1) 受験者数の増加：普通科の設置に伴い、前年度に比べて受験者数が2.5倍に増加した。特に、e-スポーツコースの受験者が全受験者数の3分の1を占めている。
- (2) 学校紹介の遅れ：普通科認可の遅れから、学校紹介が遅れたため、入試までの期間が短くなった。しかし、学校訪問やネットによる広報などを通して、オープンスクールでの中学生の参加を多く得ることができた。
- (3) 入学者数の増加：一般入試では、入学生徒が58名と昨年度の9名から大きく増加している。これは、普通科の設置やe-スポーツコースの設置による影響が考えられる。

## 6 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしているが、今年度、様々な理由でやむを得ず途中転学または退学した生徒の数は、以下の通りである。個々にその原因は違うが、教員のカウンセリング能力を高めるとともに保護者の理解を含め丁寧な対応と指導で減らしていく。

<理由>

- ・病気のため退学(1)
- ・コースの方針と合わず通信高校に転学(4)
- ・家庭環境の変化のため(2)

<途中転学や退学者数>

1年 幼	1名	音	0名	バ	2名	舞	3名	計	6名
2年 幼	1名	音	0名	バ	0名	舞	0名	計	1名
3年 幼	0名	音	0名	バ	0名	舞	0名	計	0名
合計 幼	2名	音	0名	バ	2名	舞	3名	計	7名

(昨年比 0名)

## 7 開かれた学校づくり

### (1) 教育情報の積極的な発信

・本校公式ホームページは、家庭用PCだけでなく、携帯やスマホからも見ることができるが、5年度より開講する「品川学藝高等学校」の情報との併設により、若干の情報確認がしにくくなった。しかし、日音祭やコースコンサート、サウンドオブミュージック、卒業公演なども積極的に配信できた。中学生が興味・関心をもてる本校の行事の情報や入試に関する情報も配信してきた。

### (2) 三浦学園グループの幼稚園・保育園・有明教育芸術短期大学との連携

- ・幼児教育コースの生徒による週に1度の併設幼稚園・保育園の実習や行事の手伝い等、連携を深めている。
- ・有明教育芸術短期大学と高大連携として幼児教育コースの特別授業を行った。
- ・10月20日、有明教育芸術短期大学バスツアーを実施し、交流を深めた。日音卒業生の学生による司会で盛り上がる事が出来た。

### (3) 地域との連携

- ・荏原第五地区の清掃ボランティア活動に参加した。
- ・日音祭やサウンドオブミュージック上演に関して、日頃からお世話になっている

区役所管理職や小・中学校生徒や近隣住民を招待していたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対応のため招待は引き続き中止とした。

## 8 その他

### (1) 教務システムのデジタル化

・フルクラウド型校務支援システム「BLEND」(モチベーションワークス株式会社)の本格運用を開始した。授業出欠管理、教員間連絡、保護者間連絡などに活用をした。通知表もペーパーレスで保護者へ開示、学習指導要録、調査票についても、デジタル化による作成を行った。

・学校日誌をデジタル化した。これにより、作成者(校長補佐官)、副校長、校長、事務局が共有し、閲覧、確認がスピーディに行えるようになった。

### (2) タブレット端末の活用

・全教員がタブレット端末(サーフェース)を所持することにより(昨年度配布)、校務システム、授業での活用が迅速に進められた。3号館のWI-FIシステムが強化されたことにより、より使用が便利となった。授業での活用についても、Gogole Classroomを中心に研修を行い、使用を進めているところである。

・生徒への端末(iPad)を1年生全員に配布した。授業での活用を模索中ではあるが、研修会を開き、活用充実に向けて進めている。

(以上)

### 3. 令和4年度 日本音楽学校幼稚園 事業報告

#### 1 保育活動

「園生活は 子どもが主人公！」を合言葉に、心身ともに健康な人間の育成を目指した。保育者との信頼関係を基盤に、集団生活の中で自己を十分に発揮し、主体的に遊びや生活が進められるようになるために、学年に応じた指導の重点を設定した。

##### 3歳児（すみれ組）

- 一人一人の発達や育ちを踏まえ、基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
- 保育者に親しみをもち、安心して過ごすことができるようにする。
- 自己の思いを出しながら遊びを楽しめるようにする。

##### 4歳児（ばら組）

- 伸び伸びと自己を表現しながら好きな遊びを繰り返し楽しむようにする。
- 友達と関わる中で、相手の思いに気づいたり受け止めたりして、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

##### 5歳児（まつ組）

- 自分のめあてに向け、試したり考えたりして取り組み、やり遂げる達成感を味わえるようにする。

指導の重点を受け、月ごとの指導のねらいを達成できるよう取り組んだ。月ごとの指導のねらいについては、園だよりを通して保護者に周知した。

#### (1) 英語指導

安本えつ子先生の指導を受け、4歳児、5歳児が取り組んだ。月2回（1回45分）の指導を受けた。英語の歌を歌ったり、動物や果物、野菜の名前を英語で言ったりと楽しく活動した。簡単な会話も行い、英語に親しむことができた。10月からはジェマ・ヘムス先生が指導に加わった。2月末をもって安本先生が退任し、ジェマ先生から指導を受けることになった。3月から、3歳児と4歳児の指導に変わり、令和5年度の移行をスムーズにできるようにした。

#### (2) 器楽指導

渡辺正明先生の指導を受け、毎週5歳児が取り組んだ。（1回1時間）10月までは運動会の鼓笛演奏に向けての指導を中心とした。11月からは、遊戯会に向けて、4歳児、5歳児の器楽指導となった。2月からは、4歳児が鼓笛演奏の初期指導を受けた。

#### (3) 体育指導

4歳児は月2回（1回45分）櫻井由香先生から指導を受けた。3月は3歳児に移行した。5歳児は松本幸浩先生に運動会の組体操、リレーの指導を受けた。

9月から短期間で集中して行うことができた。

#### (4) 幼小連携

コロナ禍で思うとおりに実施できていなかったが、令和4年度は品川区立宮前小学校と交流をもつことができた。

##### ①小学生職場体験 10月28日(金)

宮前小学校より本園卒園生2名が来校。3歳児は遠足で不在であったが、4歳児・5歳児と交流を深めることができた。

##### ②小学校との交流会 2月15日(水)

5歳児が宮前小学校に出向き、2年生児童と交流した。体育館において、2年生児童が考えたゲームを楽しんだ。小学校の様子を垣間見ることができた。

##### ③小学校散策 3学期

5歳児が4月から通学する小学校を外から見学した。区内10の小学校を見学し、園児一人一人の気持ちを高めることができた。

#### (5) 環境教育

保育室内に数個の飼育箱があり、カマキリ、ヤゴ、クワガタ等を飼育していた。園児たちの興味関心は高く、この機会をとらえて園庭にビオトープを設置した。めだかを放ち、いつでも観察できるようにした。

#### (6) 日々の保育

週案に沿って計画的に指導を行った。糊やクレパス、絵の具の使い方、折り紙の折り方など基本的な方法を指導し、園児が表現を楽しんでできるようにした。

また、ハーモニカや鍵盤ハーモニカ、カスタネットなども基本的な使い方を指導し、演奏活動を楽しめるようにした。

## 2 園の行事

新型コロナウイルス感染対策として行事が思うように実施できない期間が続いていた。園児の成長や発達を鑑みて、これ以上行事の削減をするのを避けたいと考えた。感染対策を最低限取りながら、今までの園行事に近いものとして実施を図った。

#### (1) 遠足

①1学期 4歳児 大井中央公園 5月20日(金)

5歳児 " 5月30日(火)

新型コロナウイルス感染対策のため、歩いて行ける場所を選択した。昼食は園に戻って摂った。

②2学期 3歳児 砧公園 10月28日(金)

4歳児 " 10月21日(金)

5歳児 " 10月14日(金)

行事自粛のため、しばらくの期間公共交通機関を利用しなかったため、保護者に現地の駅(東急線用賀駅)までの送迎を依頼した。

③ 3 学期 5 歳児 お別れ遠足 上野動物園 2 月 1 7 日 ( 金 )

当日、小学校の入学説明会があり、保護者が迎えに来られないため、何名かは園に戻り、預かり保育を実施した。

( 2 ) 運動会 1 0 月 8 日 ( 土 )

高校の校庭をお借りして実施した。午前中の開催とし、全園児一堂に会して行った。コロナ感染対策として、園児 1 名につき保護者 2 名までとした。

( 3 ) 親子お楽しみ会 1 1 月 3 日 ( 木 )

子どもたちが楽しめる催しとしたいという保護者の願いがあり、バザーを改め親子で楽しめる親子お楽しみ会とした。担当の保護者の負担軽減も考えたが、全保護者に協力を依頼して準備ができた。

( 4 ) 遊戯会 1 2 月 1 0 日 ( 土 )

保護者から、両親以外にも鑑賞させたいという願いもあり、園児一人につき保護者 2 名までという原則を崩さず、オンラインで遊戯会をライブ中継した。

( 5 ) 卒園式 3 月 1 7 日 ( 金 )

コロナウイルス感染が下火になってきたため、保護者の人数制限を 1 家庭 6 名までとした。両親のみでなく、祖父母の姿も見られた。

3 園児数の推移

	4 月 1 日	3 月 3 1 日
3 歳児	1 7	1 6
4 歳児	2 7	2 5
5 歳児	3 2	3 1
計	7 6	7 2

※転居等に伴う退園

4 卒園児の進学先

品川区立戸越小学校	9 名	品川区立三木小学校	6 名
〃 豊葉の杜学園	6 名	〃 山中小学校	3 名
〃 大井第一小学校	1 名	〃 荏原平塚学園	1 名
〃 芳水小学校	1 名	〃 城南小学校	1 名
〃 立会小学校	1 名	〃 浅間台小学校	1 名
川崎市立富士見台小学校	1 名	計	3 1 名

5 園内のデジタル化の推進

( 1 ) 保育システムのデジタル化

保育 I C T 支援システム「ルクミー」(ユニファ株式会社)を導入した。本格運用は 3 学期から行った。出欠席の管理、体温の記録、保護者と園からの連絡等に活用している。通知のペーパーレス化を推進する。

( 2 ) iPad の活用

全教職員（7名）に iPad を配布、出欠席の確認や、保護者からの連絡確認に活用している。今後は、オンラインでの個人面談や保護者会等の運用も考えていく。

## 6 園児募集の試み

### (1) 園庭開放

1 回目は正門にポスターを掲示、2 回目以降は園庭開放時に予告した。

- ① 1 回目 5 月 2 5 日（水） 11:45～12:30 2 3 家庭参加
- ② 2 回目 9 月 7 日（水） 雨天中止
- ③ 3 回目 1 0 月 1 9 日（水） 11:45～12:30 1 2 家庭参加
- ④ 4 回目 2 月 8 日（水） 11:45～12:30 9 家庭参加

### (2) 2 歳児教室

対象は、本園卒園児家庭とその他家庭（園庭開放で周知）

- ① 1 回目 6 月 2 2 日（水） 1 4 家庭参加
- ② 2 回目 6 月 2 9 日（水） 1 5 家庭参加
- ③ 3 回目 7 月 1 3 日（水） 1 1 家庭参加
- ④ 4 回目 7 月 2 5 日（月） 2 6 日（火） 1 1 家庭参加
- ⑤ 5 回目 9 月 1 4 日（水） 1 5 家庭参加
- ⑥ 6 回目 9 月 2 0 日（火） 9 家庭参加
- ⑦ 7 回目 9 月 2 7 日（火） 8 家庭参加
- ⑧ 8 回目 1 0 月 1 2 日（水） 1 7 家庭参加
- ⑨ 9 回目 1 0 月 1 7 日（月） 8 家庭参加
- ⑩ 10 回目 1 0 月 2 4 日（月） 2 0 家庭申込

保険料 3,000 円 1 回 1,500 円 を徴収した。

### (3) 入園説明会

例年 1 回だけであった説明会を 2 回行った。

- ① 1 回目 9 月 1 7 日（土） 10:00～
- ② 2 回目 1 0 月 1 5 日（土） 10:00～
  - 1 回目 2 3 名（入園希望者 1 1 名 検討 1 2 名）
  - 2 回目 9 名（ " 3 名 " 6 名）
  - 合 計 3 2 名（入園希望者 1 4 名 検討 1 8 名）

教育内容の質問より、どちらかといえば預かり保育への関心が強いと感じた。

令和 5 年度の説明会は、1 学期に 1 回、2 学期に 2 回、計 3 回実施する。

## 7 預かり保育

### (1) 実施状況

#### ① 通常保育後の預かり保育

- ・ 預かり保育延べ園児数 3,864 人

- ・実施日数 185日 1日平均 20名

## ②長期休業期間中の預かり保育

- ・預かり保育延べ園児数 716名
- ・実施日数 37日 1日平均 19名

## (2) 実施上の課題

### ①担当者の配置

- ・通常時の預かり保育は預かり担当（キンダー担当という）がいるため保育補助者2名とで対応している。キンダー担当が年度途中で退職したため、傳川主任がキンダー担当となって対応した。キンダーの最終終了時刻が18時30分のため、勤務時間の調整が難しかった。
- ・長期休業期間中はキンダー担当者だけに任せしまうと、他の教員との勤務日数の差が大きくなる。このことから、長期期間の預かりに係る日数の均等化を図る必要があった。
- ・教員の研究と修養、休暇の取得を明確にする必要がある。

### ②保護者の考え

- ・振替休園日のキンダー  
運動会、お泊り保育、親子お楽しみ会、遊戯会の振替休園日を設定している。月曜日、火曜日の振替となるが、振替休園日にもキンダーを実施してもらいたい。
- ・お盆休み、年始、新年度の4月のキンダー  
お盆休みの期間、年始（4日～6日）、新年度（4月1日～5日）はキンダーを行っていない。この期間もキンダーを実施してもらいたい。

## 8 その他

### (1) ホームページの刷新

懸案であったホームページを新しくすることができた。今まで以上に見やすく、検索しやすくなり、利用状況も向上した。ホームページを見ての入園や転園の問い合わせが増えた。

### (2) 園だより

5月より、毎月初めに園だよりを発行した。「園の出来事」、「指導のねらい」、「園長から」、「季節の話題」、「お知らせ」を掲載している。

## <年間事業>

基本方針 日本音楽学校保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って全体的な計画・年間指導計画・月・週案を立案し、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり、保育を実践している。

### 保育実践

- ・今年度は4月スタートの0歳児が5名と少なく、ゆっくりとスタートすることが出来た。
- ・今年度も新型コロナウイルスの影響で、行事の中止・延期・縮小と計画通りにはいかない事が多くあった。
- ・前年度より、保護者の希望もあり保育参加は期間を延ばし参加人数を少なくし行う。運動会を目前に新型コロナウイルスに多く感染し登園自粛に協力してもらう。楽しく積み重ねた活動を披露する場所、また保護者からも希望する声も多く音楽会を動画配信とし、音楽会開催予定日に1、2歳運動会を縮小して行う。卒園式などは参加人数を限定し行う。
- ・今年度も毎日の検温をはじめ、手洗いや、こまめな洗濯や消毒など、引き続き徹底して行っている。
- ・戸外遊びも密にならぬように配慮し、学校グラウンドや、幼稚園園庭にも足を運び体を動かし遊ぶ事ができた。近隣の公園は混みあう事も多くあり、予定を変更し他の公園に移動する事がある。法人施設が利用でき、のびのびと遊べる環境は保護者の方も喜んでいる。
- ・外部から講師を招いての活動(べんちゃんと遊ぼう・英語)は、子ども達も積極的に活動に取り組む姿があり、保護者からも大変好評である。今年度は「英語で遊ぼう」の回数を増やし、新たな言語や文化に触れて楽しむ姿がある。
- ・今年度も、ゆたか図書館の方を招いてお話を開催。いつもと違う絵本や、大型紙芝居をよく見ていた。今後も園に招いて、絵本や楽しいお話に触れる機会を持つ。出来れば次年度は回数を増やせたらと考えている。
- ・食育活動の一環として、行事食を提供したり、2歳児はピザ作りを経験できた。
- ・2歳児はベランダにて季節の野菜を通年育て、水やりや育つ過程をととても楽しみにしており、また給食で提供し喜んで食べていた。保護者に野菜の栽培に詳しい方がおり、一緒に活動を手伝ってもらうこともあった。
- ・今年度も、水遊びを行う際は学校グラウンド脇にて行う。開放的な空間で大いに楽しめた。
- ・指導検査が9月にあった。指摘事項等はなく、助言頂いた事項については訂正・修正をしている。
- ・HPをリニューアルして見やすいものにした。献立をHPに貼り付けて保護者へ周知しペーパーレス化も進めていきたい。
- ・1歳児クラスには長時間保育の子も多くいるので、室内にマットを敷いたりのんびり出来る空間づくりを心掛けた。
- ・2歳児親子遠足は感染拡大の観点から中止となり、2歳児園児と職員でエコル戸越へ遊びに行く。みんなで初めて展示室に行き遊ぶことが出来た。公共の場でのお約束や遊び方など、2歳児なりにしっかりと考え、楽しむ姿があった。

### 保護者支援

- ・今年度も引き続き感染予防には十分に注意し、手消毒・検温など協力をして頂く。
- ・保育参加は開催時の日程をのぼし、1度の参加人数を少なくすることで対応した。
- ・保護者の方に外国籍の方も増えており、連絡帳はローマ字対応や個々に応じた細やかなサポートや援助を行った。ネパール国籍の家庭より、宗教食の希望もあり、出来る限り配慮し保護者の希望になるべくより添った。

## 地域交流

- ・今年度も交流事業は中止となった。

## 研修

- ・近隣の保育園がグループに分かれ、互いに見学をし環境面を学んでくる。手作り玩具など参考になる物も多くあり、職員で共有できた。次年度は手作り玩具をテーマに園内研修を進めていきたい。
- ・園外研修も積極的に行い、品川区主催ののびしなプロフェッショナルスクール研修や東京都の厚生労働省主催の研修に参加し、知識や技術の習得をし、職員会議等で報告し職員に周知できた。
- ・キャリアアップ研修にも参加できている。

## 職員分担・勤務形態

- ・事務の時間を確保する習慣が職員全体についてきた。勤務時間内に終われるよう作業なども効率化を図る。
- ・リーダー会の回数を増やし、伝達事項等はその場を利用し、夜の職員会議時間の短縮を図った。又クラスの打ち合わせも時間の確保が難しいとの声もあるので、次年度は工夫が必要となる。
- ・次年度は職員のライフスタイルも大きな変化がある。(小学校にあがる子どもを抱える保育者が多い。)
- ・早番専門の職員が定着しており非常に助かっている。
- ・今年度職員1名が退職、また6月より産休の職員がおり、職員確保が課題となる。

1期 (4・5・6月)	6月より1歳児1名	・春の健康診断	・歯科検診
園児受け入れ・・・4月1日現在 0歳児5名 1歳児10名 2歳児11名 計26名 新型コロナウイルスの影響からか、品川区全体的に保育園の希望者が例年に比べ少ない。 4月予定していた園内行事は中止。各クラスの保護者会は資料配布・保育参加は中止とする。 健康診断(4月) 歯科検診(6月) 2歳児は苗植えを経験する。			
2期 (7・8・9月)	9月より0歳児1名入園	8月1歳児2名	
・プールは中止 水遊びや、沐浴・シャワーは行う。今年度より学校グラウンドにて行う。 ・七夕会・お祭りは在園児のみで楽しむ。規模は小さいが雰囲気や行事の楽しさを味わえた。 ・2歳児は英語で遊ぼう(年間6回) ベンちゃんと遊ぼう(毎月活動)がある。 ・9月品川区指導検査実施			
3期 (10・11・12月)	10月より0歳児3名	・秋の健康診断	・歯科検診
・運動会延期(コロナ陽性者多数)12月に開催 ・ハロウィンでは、近隣の商店の方や保護者の方よりお菓子を頂く。 ・第1回拡大委員会は書面にて開催する・個人面談は希望者のみ行う・小さな音楽会は動画配信とする ・お楽しみ食事は感染症に配慮し、個人皿に盛り付ける等して楽しむ。			
4期 (1・2・3・月)			
・新年おめでとう会・節分・ひな祭りは園内で楽しむ ・保護者会を3年ぶりに行い多くの保護者が参加する。 ・うさぎ組の親子遠足は中止とし、エコル戸越にて遠足ごっこを楽しむ。 ・2歳児クッキング(ピザトースト作り) ・第2回拡大委員会 ・さようならの会をAスタジオにて卒園児・保護者のみの参加とし執り行った。			

写真販売・・・3回 動画配信・・・3回